

2026年5月15日

各 位

会 社 名 株式会社 SANKO MARKETING FOODS
本店所在地 東京都中央区新川一丁目 10 番 14 号
代 表 者 名 代表取締役社長 長 澤 成 博
(コード番号：2762 東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 専 務 取 締 役 富 川 健 太 郎
(TEL. 03-6861-9630 (代表))

資金使途の変更に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2022年12月15日付「第三者割当による第1回新株予約権付社債（転換価額修正条項付）及び第5回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行並びに新株予約権付社債及び新株予約権の買取契約（第5回新株予約権につきコミット・イシュー※）の締結に関するお知らせ」において開示しました第5回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行により調達する資金の具体的な使途及び支出予定時期について、下記のとおり一部変更することといたしましたので、お知らせいたします。

なお、本来であれば、資金使途及び充当予定時期に変更が生じた時点で遅滞なく資金使途の変更に関して開示すべきところ、開示が遅延いたしましたことを深くお詫び申し上げます。

記

1. 変更の理由

当社は、第5回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行により調達する資金について、①安定的な黒字化を目指す既存事業への投資、及び②今後の成長エンジンとする新規事業への投資を資金使途として、調達資金1,055百万円をこれらに充当することを予定しておりましたが、この度、資金使途及び充当予定時期を変更することといたしました。なお、調達資金について、当該資金の実際の充当額は719百万円となり資金調達予定額には到達いたしませんでした。

具体的な変更の理由は以下のとおりであります。

- (1) 当社は、2023年から、産地漁業者からの鮮魚を漁獲、魚種、相場に関わらず一定の価額で買い取りする取り組みを開始いたしました。この取り組みをSANKO船団と称し、自社専用船とともに朝獲れの新鮮な魚介類を、当社直営店舗に多段階流通を経ずに卸す試みを始めました。SANKO船団は、時化や漁船のコンディション等の影響から、当初見込んでいた目標漁獲量が未達成の状況が続いたことから、年間を通じて計画通りの利益を確保することができない状況が継続いたしました。
- (2) 総合食品東海は、「仲卸からの脱却」を経営方針として掲げ、強みであるマグロ加工と商品開発力を生かし、「まぐろ餃子」「まぐろメンチ」「まぐろコロッケ」などの新商品を開発・投入するなど、水産加工メーカーとして利益体質への転換を進めておりますが、主要取引先との契約が一部終了するなど販売計画の未達成が継続しております。
- (3) 当社の沼津加工場において、自社専用船である三光丸やSANKO船団、産地市場から仕入れた水産物を加工し当社直営店舗や当社グループ会社への販売（内部売上高）が向上したことによりシナジー効果を生み出している一方で、当社グループ外部への販売（外部売上高）が当初計画に比較して緩やかな成長に留まっております。また、加工場内における生産効率の向上が計画と比較して緩やかであり、結果、現時点において想定していた利益を確保することができていない状況が継続いたしました。
- (4) 飲食部門における新規店舗において深刻な人材不足により適材適所の人材配置が行えなかったことに

加え、店舗立地を取り巻く商環境の変化等の影響から立ち上がりが遅れ、当初想定していた売上及び利益を下回りました。

- (5) 当社グループは、業務プロセス及び IT システムの見直しによって業務の省力化を実現することで、人件費等をより一層極小化する取り組みを推進しております。しかしながら、基幹システムとなるべき水産 DX システムの開発他 IT システムへの投資を進めるなかで、水産の現場・現実・現物（セリや相対取引という高速かつ即断の商慣習や現場環境、多種、多様、多層にわたる水産プレイヤーの存在、デジタルリテラシーの壁、法制度や行政実務が紙前提であること等）と目指すシステムとの乖離を解消するに至っておらず、計画通りに基幹システムとなるべき水産 DX システムを正式に導入を決定するに至っておりません。そして、システム化の遅れによって人件費等の負担が重く、解消されないままになっている状況にあります。

これらの事情を踏まえ、未充当となっている 173 百万円につきましては、人件費及び賃料等の運転資金に充当することとし、資金使途及び充当予定時期を下記のとおり変更いたしました。

2. 変更内容

資金使途の変更内容は以下のとおりであります。なお、以下の表における変更箇所については、下線で示しております。

<変更前>

具体的な使途	金額	支出予定時期
① 安定的な黒字化を目指す既存事業への投資		
(i) アカマル屋の新規出店に向けた投資	<u>390百万円</u>	<u>2023年1月～2025年6月</u>
(ii) アカマル屋鮮魚店の新規出店に向けた投資	<u>324百万円</u>	<u>2023年1月～2025年6月</u>
② 今後の成長エンジンとする新規事業への投資		
(i) 水産DXプラットフォームの構築投資	<u>70百万円</u>	<u>2023年7月～2025年6月</u>
(ii) 水産事業プラットフォーム構築の事業買収	<u>271百万円</u>	<u>2023年1月～2025年6月</u>
合計	<u>1,055百万円</u>	

<変更後>

具体的な使途	金額	支出予定時期
① 安定的な黒字化を目指す既存事業への投資		
(i) アカマル屋の新規出店に向けた投資	<u>166百万円</u>	<u>2023年1月～2025年6月</u>
(ii) アカマル屋鮮魚店の新規出店に向けた投資	<u>225百万円</u>	<u>2023年1月～2025年6月</u>
② 今後の成長エンジンとする新規事業への投資		
(i) 水産DXプラットフォームの構築投資	<u>19百万円</u>	<u>2023年7月～2025年6月</u>

(ii) 水産事業プラットフォーム構築 の事業買収	<u>134</u> 百万円	<u>2023年1月～2025年6月</u>
③ 運転資金	<u>173</u> 百万円	<u>2025年6月～2026年12月</u>
合 計	<u>719</u> 百万円	

3. 今後の見通し

連結業績に与える影響につきましては、軽微であると考えておりますが、今後、開示すべき重要な事項が発生した場合には、速やかに業績への影響を開示いたします。

以上